

大谷中学高等学校 グランドデザイン

2022年度～2031年度

人間としての成長



熱意

- ・何事にも挑戦する。
- ・主体的に取り組む。
- ・精一杯やりぬく。

他者との かかわり

- ・自分ができること。
- ・他への思いやり。
- ・国際的な視野。

自分のこと

- ・自己を理解する。
- ・自信を持つ。
- ・生きる意味を考える。

学力の伸長



- ・基礎的な知識、技術を身に付ける。
- ・情報、技術を活用する力を身に付ける。
- ・計画し行動に移す力を身に付ける。
- ・社会に貢献する力を身に付ける。

生徒の立場に
立つ。

自ら学びたい
という気持ち
を持たせる。

課外活動に
積極的に
参加させる。

それぞれに
合ったサポートを
する。

できるまで
支える。

周囲との
つながりを
感じさせる。

様々な
可能性を
提示する。

成長を
実感させる。

保護者、地域と
連携する。

ゆきとどいた教育でサポート(支援)



大谷中・高等学校グランドデザイン（2022～2031）

理念と教育方針

I. 理念

創立100周年の時、廣小路亨先生は、『これからもこの学園が存続するということは、本校の教育理念による教育が行なわれていることでなくてはならない。もし、この一点を見失うならば、他にどんな条件が具備していても、もはやこの学園の存在理由とはなり得ないであろう。このことを確認してゆくことは、本校の教育を継承している今日のわれらの最大の責任である。』と述べられている。そこで、本校の教育理念を私たちも再考し、継承していく必要があると感じた。

また、世界に開かれた宗教としての浄土真宗に基づき、親鸞によって開かれた真実の教えを建学の精神とする大谷中学高等学校が「人として生まれた意義と生きる喜びを見いだした」人間を世に送り出すことこそが、本校の存在意義であるとも考える。以上のことより、グランドデザイン構築にあたり、あらためて下記の理念を掲げる。

樹心（人と成る）：「心を弘誓の仏地に樹てる」（教行信証）とは、真の人の誕生を言い表した言葉である。弘誓とは真実、樹心とは真の人と成ることを意味し、「樹心弘誓仏地」とは、真実を求め、真実に目覚めることである。

本願（いのちを大切に作る）：わたしたちにはみなかけがえのない「いのち」がある。いのちの尊さが感じられないと、つらく悲しくなる。今生きているわたしが大切に思えるとき、いのちは輝き、優しくたくましくなる。

聞法（自分を発見する）：悩むことは生きている証であり、よりよく生きようとする心の現れである。おおいに学び、おおいに鍛えることが個性をのぼす。だれとも比較しなくてもよい新しい自分を発見することで、生きる勇気がわいてくる。

同朋（友とともに歩む）：人は一人では生きていけないものである。自分らしくあることで友ができたらいい。閉じた心を開き、わかり合おうとつとめるとき、友の鼓動が聞こえ、人の痛みがわかる。一人ではつくれない喜びに出会う。

精進（本気でやりとげる）：わたしの中には無限の可能性が埋もれている。わたしがわたしになるために、失敗をおそれず、困難から逃げず、自分をごまかさない。本気になれば世界が変わる。

II. 教育方針

これまでの教育方針を再度検討し、今後10年間にわたる柱を以下のように設定した。

「人間としての成長と、学力の伸長を、ゆきとどいた教育でサポート（支援）する。」

上記を実現するために、「人間としての成長」・「学力の伸長」・「ゆきとどいた教育でサポート（支援）する」とは何かをそれぞれまとめた。

まず、「人間としての成長」とは、教育理念に掲げられている「人となる」ということを実現することである。そのために、ひとりひとりが熱意をもって何事にも挑戦し、自ら興味・関心を持って主体的に取り組み、精一杯やりぬくことである。また、他者とのかかわりにおいて、自分の立ち位置を知り、他人への思いやりや国際的な視野を持つことである。そして、自分自身について、自己を理解し、今後の人生に自信を持ち、生きる意味を考えることができるようになることである。

次に、「学力の伸長」とは、基礎的な知識・技術はもちろん、情報・技術を活用する力や、目標に向かって計画し行動に移す力、社会に貢献する力を身に付けることである。最後に、それをどのように「サポート（支援）する」かについて、様々なことを確認した。まず、ひとりひとりの目線に立って、それぞれにあった見守りをし、こうしなさい、ああしなさいではなく、こうしたらよいのではないか、こんな方法もあるよと生徒の立場を尊重して、様々なサポート（支援）をする。そして、様々な可能性を提示し、知識の詰め込みだけでなく興味・関心を持ち、自ら学びたいという気持ちを持たせる。また、諦めない心を育てられるように、失敗しても寄り添って、できるようになるまで支え続け、できないことを一緒に考え、途中で諦める習慣をつけないようにし、自分の成長を実感できるようにする。学習面以外にも課外活動に積極的に参加させ、自分や周囲とのつながりを感じつつ学ぶことができるような環境を整え、主体的に取り組むようにさせる。生徒とかかわりを持つ私たち（教職員）はサポーターであり、保護者や地域とも連携してサポート（支援）する。以上のようなことを教職員で共有し、生徒と関わりながら共に成長できるような学校であり続けたいと考えている。